

多田雅史

件名: 全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA)【情報 Vol.193】
添付ファイル: 副作用リスク上昇…同じ薬を飲み続けるのはこんなに危険だった (FRIDAY) - Yahoo! ニュース.pdf; BzRAsの過去・現在・未来 (辻敬一郎、田島治) テキスト認識.pdf; B Y A 情報提供記事リスト(Vol.1-193).pdf

各位 (本情報提供メールは当会会員、協力弁護士、協力医、報道機関、医療過誤団体、野党政党等の約400カ所へBCC送信しています)

全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 (BYA) の多田雅史です。

本メールはベンゾジアゼピン (BZD) 関連情報をお送りしています。

- (1) 新規の情報提供希望者が身近におられた場合、BYA-HPの「お問合せ」をご紹介ください。
<https://www.benzodiazepine-yakugai-association.com/>
- (2) 有用な情報をお持ちの方は本メールに返送してお知らせください。皆さんに情報提供します。
- (3) 情報の中で「拡散すべき情報」があれば、皆さんの判断で自由に「転送・SNS拡散」してください。

【目次】

1. 「ベンゾジアゼピン副作用の診断書」の確認 (重要なお知らせ)
2. 8年間悩まされた不眠症を克服した50代女医。その方法とは? (辻敬一郎の医学論文を添付)
3. 糖尿病薬302万箱回収 発がん性物質検出 大日本住友製薬
4. 副作用リスク上昇…同じ薬を飲み続けるのはこんなに危険だった (添付)
5. 情報提供メールの記事リスト (添付)

【記事】

1. 「ベンゾジアゼピン副作用の診断書」の確認 (重要なお知らせ)

ベンゾジアゼピン薬害の国家賠償請求集団訴訟に当たり、「ベンゾジアゼピン副作用の診断書」の有無を確認をしています。当会へ正式に会員登録票を提出されていない方で、「ベンゾジアゼピン副作用の診断書」を取得済みの方がみえれば、当会へご連絡ください。当メールに返信されれば結構です。

2. 8年間悩まされた不眠症を克服した50代女医。その方法とは? (辻敬一郎の医学論文を添付)

<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200427-00010000-ourage-life>

以下引用

『「8年前に夫が病に倒れて以来、不眠症に悩まされることに。眠剤で対応してきましたが、実際に不眠が改善してきたのは、ここ1~2年のことですね。現在も旅行のときなど、状況に合わせて超短時間作用型の非ベンゾジアゼピン系のルネスタを服用しています」

常に薬に頼らずとも眠れるようになった土屋先生。漢方薬と適度な運動で、不眠症を徐々に改善していたそう。その快眠メソッドは…』

精神・神経系の疾患で、作動機序が確定している薬物を除いて、疾患を治癒させる有効な薬物など存在しない。特に、ベンゾジアゼピンは、一時的な鎮静効果しかなく、その間に人間が持つ自然治癒力を回復させるしか治療方法はない。したがって、精神・神経系の疾患は、特定の場合を除き、薬物に頼るべきではない。特に不眠はベンゾジアゼピンでは治癒できず、連用すれば副作用が増幅するだけである。

●依存性薬物の歴史に関する医学文献「BzRAsの過去・現在・未来」(辻敬一郎)を再掲するのでよく

判読されたい。

3. 糖尿病薬302万箱回収 発がん性物質検出 大日本住友製薬
https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200427-00000084-ijj-bus_all

以下引用

『大日本住友製薬は27日、糖尿病治療薬「メトグルコ錠」約302万箱を自主回収すると発表した。厚生労働省の要請を受けた検査の結果、一部で基準を超える発がん性物質が検出されたため。』

大日本住友製薬、この会社は薬物の安全性確保レベルが極端に低い製薬会社である。かつて、睡眠薬イソミン錠を発売し、含まれていたサリドマイドにより新生児の奇形等の症状を呈する薬害を引き起こした会社である。処方薬を服用する際は、どの製薬会社の製品であるかを確認することも重要。

4. 副作用リスク上昇…同じ薬を飲み続けるのはこんなに危険だった (添付)
<https://headlines.yahoo.co.jp/article?a=20200303-00000005-friday-soci>

以下引用

『◆【睡眠薬（ベンゾジアゼピン系製剤）】

厚生労働省は、「デパス」をはじめとして、ベンゾジアゼピン系製剤には依存性があるとの注意喚起を促している。

50代女性が自らの体験を語る。

「夫の浮気に悩み、不安やイライラ、不眠がひどくなりました。それで病院へ行くと『デパス』を処方されて、イライラしたときにバリバリとお菓子みたいに服用していました。そうしたら、ある日突然、意識が混濁してしまい、目が覚めた時は病院でした」

服用を続けた結果、薬剤性の精神疾患となる恐れがあるのだ。4週間以上の連用で依存性が生じやすくなる。

「眠気、注意力・集中力の低下、ふらつき、健忘などの副作用を起こす可能性があります。また、長期服用により認知機能への悪影響も報告されています」（ブレインケアクリニック名誉医院長・今野裕之医師）』

今さら言うまでもなく、ベンゾジアゼピンを4週間以上連用すれば、薬物依存症に罹患し、多様な副作用や離脱症状、奇異反応など大きな副作用を生じて、地獄への入口に到達する。

5. 情報提供メールの記事リスト (添付)

Vol.1からVol.193までの記事リストを添付し、BYA-HPにも掲載する。過去記事の検索に利用されたい。



全国ベンゾジアゼピン薬害連絡協議会 多田雅史